



高原の風だより

2017（平成29）年12月 発行 <第11号>

眺望景観整備基本方針に期待

～森林景観整備事業は、交通安全面からも積極的な取り組みを～

11月に木曾町長選挙と木曾町議会議員選挙（定数14名）があり、どちらも無投票で当選が決まりました。私もお陰さまで、町議として活動することができるようになりました。

木曾町の発展と住民生活の向上、福祉の充実に向けて精一杯取り組んでいく所存です。今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

12月にはさっそく定例会が開かれました。13日には一般質問が行われ、私も初めて質問に立ち眺望景観整備基本方針と情報提供（「広報きそまち」）の二点について町の考えをいただきました。

御嶽山等のビューポイントづくりの推進を。

8月末、郡内の町村長や国、県の関係者らが「木曾路の眺望景観整備基本方針」の推進について宣言をしました。地元住民の視点を始め、木曾を訪れる人々の視点で見る木曾路の眺望を整備しようというものです。御嶽山や中央アルプスのビューポイントづくりなどを進めるにあたっては、ゆっくり眺望を楽しめるような駐車スペースの確保や案内看板の設置などの環境整備も必要になりますが、とりわけ重要なのは眺望の支障となっている樹木の伐採です。今まで見えていたものが年々見えづらくなったり、全く見えなくなっている箇所も多く見受けられます。



また、特に冬期間、山間地では道路沿いの樹木によって太陽光がさえ **支障木の影響で雪が溶けない道路** ぎられ、道路に積もった雪がいつまでも溶けなかったり、昼間溶けたものが夜間に凍結して、スリップ事故につながったりするような非常に危険な状況になる場所も少なくありません。支障木の伐採については眺望景観の整備の観点はもちろんのこと交通安全面からもぜひ積極的に進めていただきたいと思います。

予 告！

「Iターン者フォーラム」開催のお知らせ

～Iターン者をひきつける木曾の魅力とは～

少子高齢化に伴う人口減少問題。過疎化が進む木曾地域にとってより深刻な課題になっています。高校や大学を卒業して都会へ出る若者が多い中、木曾へ移り住む人々も少なからずいます。そういう人たちは、就労の場が少ない木曾へなぜ来たのか。その動機やきっかけは何だったのか。転入する際に、どんなことに苦労したのか。そして、実際に移り住んでみてどうなのか・・・等等、気軽にお話いただけます。

そういう話に耳を傾けながら、移住者受け入れの何かヒントを得られないか、と考えています。大勢の皆さんの参加をお願いします。

日 時：平成30年2月18日（日）午後1時30分～

場 所：開田母子健康センター（開田支所隣）

講 師：羽貝正美先生（東京経済大学教授）

発表者：Iターン者10名

主 催：開田高原倶楽部 【事務局】090-2526-7156



羽貝正美先生

～紙面の充実を強く求む～

住民にとって広報紙は最大の情報源

町が事業や施策など住民への周知を図る情報提供の媒体は、広報紙をはじめ町政要覧、くらしの便利帳、ホームページなどがあります。この中で一番基本的な情報媒体はやはり毎月発行している広報紙『広報きそまち』です。ところがここ数年来、紙面はその多くがお知らせ記事や行事、イベントの報告などで占められ、肝心の御嶽山の噴火災害をはじめ町の課題や問題などについての特集記事は余り紹介されていません。町が取り組んでいるさまざまな情報は現在、市民タイムスや信濃毎日新聞、中日新聞など地元紙などを通じて知り得ている状況です。

町はもっとさまざまな情報を的確に、丁寧に、分かりやすく住民に知らせてほしいと思います。多くの住民もそのことを強く願っていると思います。

御嶽山噴火について情報は地元紙が頼り ～ 新聞を通じて町の取り組みを知る ～

御嶽山の噴火に関して町から広報紙を通じて情報はほとんど入ってきません。噴火2か月後に噴火の概要や災害対策の経過等が載ったほかは災害復興戦略チーム・戦略会議が発足したという記事や折鶴を作った、和太鼓のチャリティーコンサートを実施した、最近の紙面では名古屋大学が御嶽山火山研究施設を三岳支所に開設したという程度しか噴火に関する情報は載っていません。



松原スポーツ公園内に設置された御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑(王滝村役場提供)

松原スポーツ公園内に設置された御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑(王滝村役場提供)の拠点や避難施設にするとということ。御嶽神社奥社の祈祷所の外壁をビジターセンターで展示するという。9月27日には王滝村の松原スポーツ公園内で慰霊碑の除幕式と追悼式が行われたということ等などすべてが地元紙からの情報です。

したがって御嶽山の噴火に関しては市民タイムスや信濃毎日新聞、中日新聞など地元紙の情報が頼りになっています。この地元紙がなければ御嶽山噴火に対して町がどのような取り組みを行っているのかほとんど知る術がありません。

火山防災の啓発活動に取り組む人材を県が認定する制度の名称が「御嶽山火山マイスター」に決まったこと。二ノ池本館は町が譲り受けて建て替えた後、火山防災について啓発するビジターセンターのサテライト施設としてパトロール

洞爺湖温泉町(北海道)では大きく特集 ～ 箱根町(静岡県)は噴火災害を連載 ～

近年、日本列島では火山の噴火災害が続いています。2000年には北海道有珠山、2011年は宮崎県の新燃岳、そして2015年には静岡県の大涌谷で火山性地震の活動が活発化しました。木曾町では噴火災害についての情報が、広報紙を通じて余り住民に伝わってきませんが、これらの自治体ではどうなっているのでしょうか。

最近噴火災害があったこれらの自治体へ手紙を書いて洞爺湖温泉町や宮崎県高原町(たかはるちょう)、静岡県箱根町などから火山噴火に関する広報紙などを送っていただきました。噴火の規模や内容が異なりますので、自治体の対応や広報紙等を通じた住民への周知の仕方、情報量についても単純な比較はできませんが、基本的に他の自治体では紙面で特集記事を組などしてきちんと住民にお知らせしています。火山活動の状況や経緯、町の対応などについて写真を使い時系列で分かりやすく示しています。やはり木曾町でも御嶽山の噴火災害について、町の取り組みや対応、今後の課題などについてもう少し詳しく住民の皆さんに伝えていくべきだと思います。

お知らせ記事が大半の広報紙

～ 町民は手にとって読んでくれるでしょうか ～

御嶽山の噴火についての記事だけではなく、そのほかの行政課題などについても木曾町の広報紙では特集記事を組んで住民の皆さんにお知らせするということがほとんどありません。ここ数年間の広報紙を調べてみましたが、全体の3割から4割近くがお知らせ記事になっています。

そこでかつて合併前の明科町役場時代、広報紙コンクールの全国大会で特選を取った友人が安曇野市にいますので、最近の木曾町の広報紙を送り目通しをしていただきました。そして率直な感想をいただきましたので、その一部を紹介します。

「漫画で見る木曾義仲やすんきの魅力特集は面白いと思いました。町民記者通信や『おじゃまします町長室』も良い企画だと思います。しかし、全体的な感想としてお知らせ記事と結果記事がほとんどで、町民は手にとって読んでくれるでしょうか。また、その伝え方に町民を巻き込んでいないという気がしました。たとえば今年8月号の木曾町文化交流センターのオープン、ぜひ町民の喜びの声を載せて欲しかったと思います。9月号の温水プールも同じです。新しいプールで泳ぎ初めをした子どもたちの笑顔を載せて欲しかったと思います。

また、木曾町のシンボルになっている御嶽山については、コーナーを作ってマスコミ以上にさまざまな情報の伝達が必要ではないでしょうか。」

広報紙の発行費用は年間 400万円

～ 空欄目立つお知らせ記事はもったいない ～



空欄が目立つ行事カレンダー

広報紙の発行には、毎月約33万円、年間およそ400万円という多額の経費がかかっています。そういう中、新年会のお知らせとゴミゼロ運動の報告だけで1ページを割いているものや行事カレンダーなどでは、緊急当番医が載っている程度でほとんどが空欄のものなども多く見受けられます。お知らせも大事な情報ですが、空欄が多いお知らせ記事のページは非常にもったいない気がします。もう少し費用対効果を考えてとともに、やはり掲載方法を工夫すべきではないかと思います。

見やすく、分かりやすい紙面づくりを

～ キャプション(写真説明)は必須 ～

広報担当者は、職員数が減りほかの仕事と兼務の中で、しかも御嶽山の噴火や地震等自然災害があったり、さまざまなイベントなどもあつたりして仕事量も増えている中、精一杯頑張っていることと思います。

そのことは十分承知をしていますが、町の広報紙を見ていると非常に分かりづらい点があるように感じます。見出しやレイアウトなどの問題もあるかもしれませんが、やはり一番は写真にキャプション(写真説明)がほとんどないということだと思います。写真のその人が誰なのか分かりません。文中から推測することは出来ませんが、場合によっては他人と勘違いする恐れすらあります。また、間違った情報を提供することにもなり兼ねません。他の広報紙や新聞、雑誌を見ても分かるように写真説明は必須だと思います。担当者はキャプションの点を含め見やすく分かりやすい紙面づくりを心掛けて欲しいと思います。

広報研修会などに積極的に参加を

～ 全国広報セミナーや広報紙コンクールなど ～

全国の市町村で発行している広報紙等の充実と担当職員の資質の向上を目指して毎年、(公益財団法人)日本広報協会では広報セミナーを開催しています。会場は横浜市で期間は3日間。研修内容は広報紙をはじめ、写真や映像などについて実践的な講義が行われています。私も以前、開田村役場時代に数回参加したことがありますがとても有意義な研修だと思います。

また、同協会では広報コンクールを毎年実施しています。広報紙では記事の切り口の発想性や文章の表現力、読みやすさ、表記など、さらにデザインやレイアウトなどが審査のポイントになります。これらのコンクールを通して専門家からアドバイスをいただくこともできますので広報紙の充実を図る上でとても効果的だと思います。ちなみに今年度のコンクールで県内では、辰野町の『広報たつの』が町村の部で入選していますので、これらも大いに参考になると思います。

ぜひ町の広報担当者はこれらの全国広報セミナーや広報紙コンクールなどにも積極的に参加して、より分かりやすく住民に親しまれる広報紙を目指して欲しいと思います。



木曾町の『広報きそまち』

はりきりご長寿列伝

大蔵 千代美さん (90歳・上松町) ⑪

私はNHKの信州ふるさと通信員をやっていますが、テレビのイブニング信州の「はりきりご長寿列伝」では、高齢にもかかわらず今なお元気に仕事をしている人、自分の趣味に専念している人など元気あふれるお年寄りを紹介しています。大蔵さんは、今後紹介する予定にしています。



大蔵千代美さん

料理教室を始めて47年余り ～地域の食文化を大切にしたい～

「生徒は60から70歳代の女性が多く、みんな足が痛い、腰が痛いと言うが自分はどこも痛くないの」と笑う千代美さん。どう見ても90歳とは思えない。70歳と言っても全くおかしくないほど若々しい。千代美さんは今でも現役で活躍している料理教室の先生だ。1971年から料理教室を始めてもう47年余りになる。自宅のキッチンを改築して始めた料理教室には、多いときには30人ほどの生徒が学んでいた。今でも2グループ、13人余りが隔週で教室を訪れる。1回の教室の時間は約2時間半。この間に4、5品の料理



そばすし、だし巻などのおせち料理

を作る。毎回、栄養面を考慮したメニュー作りが大変だという。千代美さんが教える料理は、余り手をかけない簡単な家庭料理が中心。「地域の食文化を大切にしたい」と入手しやすい地元の材料を使うことを常に心掛けている。

また、生徒には「調味料など計量器を使って、きちんと正確に計ることが大切」と教えている。正確な分量でまず味を確かめ、その後調味料を微妙に加えながら自分の好みの味に仕上げていくのが大蔵流だ。

「最近少し忘れっぽくなったが、今が健康で幸せ。特に苦はない」という千代美さん。あと1、2年はこの教室を続けていきたいと考えている。最後に長寿の秘訣を尋ねると「元気なのはバランスのいい食事のせいかもしれないですね」と笑顔がこぼれた。

私の本棚

『寝る前5分で読める 心がほっとするいい話』

(志賀内泰弘著・文庫ぎんが堂)



思わず人に話したくなるような感動的な「いい話」を探して東奔西走中の作家・志賀内泰弘先生（名古屋市在住）から、新著『寝る前5分で読める 心がほっとするいい話』を送っていただきました。幸せな気持ちになれる40の物語です。お休み前に、心癒されるひとときをお楽しみいただければ、と思います。

なお、先生から試し読み小冊子（無料）をお預かりしていますので、興味のある方は下記まで電話、FAX、メール等でお知らせ下さい。すぐにお届けいたします。

編集後記

先生でなくてもさすがに師走は忙しく、会報の発行が大変遅くなってしまいました。ようやく会報11号が完成しましたのでお届けします。

先日、町内の喫茶店でコーヒーを飲んだときのこと。帰り際に店主が先客の女性二人に「皆さんに紹介します。開田高原の大目ふみおさんです」と声を掛けてくれました。私もすぐさま「大目です。よろしくお願いします」と自己紹介。すると「よく知っています。『高原の風だより』いつも楽しみに読ませていただいています」と二人。私のつたない会報を読んでくださっているんだ、と本当に嬉しくなりました。

これからも皆さんに親しまれる紙面づくりを目指しますので、どうぞよろしくお願い致します。新しい年が皆さんにとって稔り多い素晴らしい一年になりますよう心からお祈り申し上げます。



編集・発行者：大目 富美雄（おおめ ふみお）

〒397-0301 長野県木曾郡木曾町開田高原末川 5190 番地

電話& FAX 0264-42-3661

携帯 090-2526-7156

E-mail info@ome-fumio.com